

令和5年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立福岡講倫館高等学校

自己評価

学校運営計画(4月)

評価(総合)

学校運営方針	これからの時代を、自立した人間として、遅く生きるとともに、社会に貢献できる人材育成をめざす		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策を校内でできる範囲で行い、授業及び学校行事を可能な限り、実施できるように努力した。今後の課題としては、 (1)コロナ禍においても柔軟に対応できる支援体制の整備を行う。 (2)総合学科高校としての本校の「強み」を明確にし、中学校や地域への発信力を強化する。 (3)4年制大学や公務員への進路希望を文系理系ともに実現できるカリキュラムを見直し、進路指導を充実させる。 (4)生徒指導においては、生徒一人一人の人権を尊重し、誰もが安心・安全な学校生活を送られるように配慮するとともに、学校、家庭、地域、専門機関との連携体制を強化することである。2年後の学校創立100周年に向けて、地域から愛され、信頼される学校としてこれからも精進していく。	生徒全員が第一志望進路実現のできる授業改善	(1)ICTを推進し、生徒の学習意欲を高める「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導方法を確立する (2)「個に応じたきめ細かな指導」により生徒の可能性を伸ばすとともに、「家庭学習習慣」の定着を図る (3)「資格取得」を奨励し、本校の特色を活かした多様な受験形態に挑戦させ、進路保障につなげる	
	生徒の社会的・職業的自立に向けた総合学科高校としての系統的实践の推進	(1)「産社・総探」の指導内容の共通理解を図り、3年間を通した「系統的なキャリア教育」を推進する (2)総合学科高校としての特色ある教育活動を相互作用させ、「高度なプレゼンテーション能力」を育成する (3)「ねらいを明確化」し、プロセスを重んじる体験的活動を通して、「豊かなコミュニケーション能力」を育む	
	規範意識の向上及び道徳的実践力の育成	(1)年間で取り組む具体的目標を定めさせることにより、「チャレンジ精神」の啓発を図る (2)相手を思いやる「立ち止まり挨拶」や「心のこもった掃除」を率先して行い、適切な行動がとれる生徒を育てる (3)地域とのつながりを実感できる「ボランティア活動」を積極的に推進し、社会の一員としての役割意識を高める	
生徒の人権が保障され、自尊感情を高めることのできる環境づくり	(1)自他をかけがえのない存在として尊重し、「相手の立場に立つものを考える事ができる」生徒を育成する (2)生徒に「主体的に」行事に取り組ませることで多くの「達成感を体験」させ、「自尊感情」を高めさせる (3)マスコットキャラクターを効果的に活用し、生徒の「愛校心」を育む		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
総学推進	「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」を中心に、全教科と連携・運動した教育活動の充実を実現する。 総合学科高校最大の学習成果発表の場である「総合学科発表会(蒼風祭)」の内容充実と組織的な実施計画の充実を図る。	本校の生徒達がプレゼンテーション能力を段階的に伸ばす教育内容を討議する。 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の学習内容を精選し、系統的なキャリア教育を企画運営する。 総合学科発表会の内容充実のために早めの準備と計画を立て、生徒実行委員と教職員が協働できるように様々な系列の教科・科目が学習の成果を展示及びステージ発表ができるよう工夫する。□	B A	・総合学科独自の取組が減りつつある。次年度より更に1年次の「産業社会と人間」が1単位及び集中での実施形態となるので、カリキュラムの精選と見直しが必要である。 ・100周年に向けて蒼風祭の開催場所の検討、予算確保、全教科を巻き込んだ実施方法の模索、生徒実行委員の育成について継続的に検討したい。
	学校関係者から正しい認識と理解を得られるように、必要とされる情報を適切な時期に発信するために、広報活動の体制を整える。 生徒達の自尊感情と愛校心を高められるように、広報活動を行う。	各分掌に広報関係の担当と共に、学校全体の情報発信体制をつくる。 中学生の進路決定時期等を意識した情報発信を行う。 オープンスクールの生徒ボランティア活動等を通して達成感とキャリア形成を意識させるように企画する。 マスコットキャラクターを活かして、YouTubeやホームページ、学校案内を作成する。	A A A	・本年度は、オープンスクールの業務にICTを活用する試みができ、また、ホームページやYouTubeも活用しているが、次年度は円滑な運用に向けた見直しを行っていく必要がある。 ・生徒達がオープンスクールを通して達成感を体験し、自尊感情を高めている状況を多くの先生方にも共有し、校内でインターンシップ体験に相当するような社会体験として、今後も教育効果を認識した指導の充実を図る。
教務	科目選択をキャリア形成の一助となるように、より細やかな指導に向けた改善を図る 授業の正しい評価方法を共通理解し、学力向上、指導の改善の取り組みを図る	本校の生徒の実情に合わせたカリキュラム等の検討を行う 各教科と連絡を密に行い、科目選択のミスマッチをなくす 観点別評価を効果的に実施するために、よりよい評価方法を各教科連携し考え、全職員で共有する 学習時間調査等のデータを共有し、きめ細やかな指導を徹底する	A A	・語学系科目に興味のある生徒が多く、次年度は、ハングル講座を増やすこととした。 ・私文4年制大学進学希望者が多いため、英語科の協力を得て「英語演習」を次年度に開設することを行った。 ・次年度も生徒のニーズに合わせて、教科と協力し、科目の新設、修正を行っていく。 また、観点別評価については、評価方法や入力方法等を共有し、運用しやすい形を検討すべきである。
	教育活動の円滑な運営のため、環境を整え情報の共有化を図る。 2年後の学校創立100周年に向け、家庭・地域との連携を図り、生徒の学校生活がより良いものになるように努める。	式典や学校行事に関する要項を適切に提示・配布し、資料の保存および改善を図る。 校務運営が円滑に行われるよう情報機器やデータ管理等の環境を整備する。 PTAと連携を図り、生徒の支援につながる活動をサポートする。 同窓会と連携を図り、100周年行事と同窓会入会式等の企画・立案を行う。	A A B	・庶務課だけでなく多くの職員の協力があり、職員会議での資料をpdfにして提示することで資料作成の業務量を減らすことができたので、今後も資料作成にICTを活用していく。 ・式典をリモート形式で実施した際も、庶務課と庶務課以外の職員の協力により、回を重ねる度に配信の技術向上を図ることができた。創立100周年も見据えた上で、放送機材や配信機器、プロジェクター等の不具合を確認し、改善していく必要がある。
研修・図書	教育課程の留意点を踏まえた教育活動を全職員が目指せるよう、職員研修の内容を工夫する。 組織的な図書館整備、運営を行い、図書館利用の促進を図る。	総合学科高校の特徴を踏まえ、校内職員研修の内容について検討、企画する。 「主体的・対話的で深い学び」が全授業で定着するよう、教科指導力向上を図る。 図書館オリエンテーションを全年次実施し、図書館の利用や活用について生徒に周知していく。 朝読書やこうちゃん通信などを通して全校生徒が多くの本に触れる機会を増やす。	B A	・ここ数年の社会状況に合わせ、教育内容の改善やデジタル化、働き方改革に向けた学校環境の改善に関する研修を更に充実させなければならない。また、先生方のニーズにいち早く対応できるような体制も整える必要がある。 ・学校図書館として本と生徒を繋ぐ役割を担っているため、昨年度より更に生徒主体の図書行事を取り入れ、知的好奇心をくすぐるような空間作りを行う。
	ガイダンスや講演会を通して、大学進学をはじめ多様な進路選択があることを生徒に示し、将来の自身の在り方について考えさせる。 多様な進路選択に対して、生徒の状況に応じた指導を行い、確かな学力の育成と生徒の第1志望の実現を目指す。	1学期に全年次対象の進路ガイダンスを行うことで、それぞれの年次に応じた進路意識を向上を図る。 多様な進路希望先に対して、情報収集と共有をはかり、生徒に対して適切な指導・助言を行う。 資格取得を積極的に呼びかけ、その資格を活かした進路先を提示することで生徒の進路選択の幅を広げる。 多様な進路に応じたコースの課外や補習授業を行い、学力の向上を図るとともに個人指導体制の充実を図る。	A A	・進路ガイダンスにより生徒の進路意識向上を図ることはできたが1日で終わってしまうので、産社や総探などで継続的に進路について考える機会が必要である。 ・各年次ごとに適宜ガイダンスや進路希望調査を行い、生徒の進路把握に努めることができたので、次年度も計画的に調査を行い進路指導に活用していく。 ・資格取得については、助成金制度ができたことで環境が整い、生徒の意欲も向上したので、次年度も更に意欲的に取り組むように助成金制度を周知していく。 ・課外や補習授業について、学力の向上について検討していく。
修学支援	「就学・修学の保障」「学力の保障」「進路の保障」を中心に、生徒の人権が保障される学校づくりをめざす。 人権・同和教育と道徳教育が教育活動の基盤になるものとの認識に立ち、生徒一人ひとりが大切にされていると実感できる教育活動をめざす。	家庭、地域と連携し、生徒の実態を把握した上で、修学支援、学習支援、進路保障に取り組む。 生徒の自尊感情が高まる授業、並びに生徒が安心して過ごせる環境整備に努め、学力伸長に寄与する。 自他ともに認め合える関係づくりのために生徒が帰属意識を持ち、多様性を認め合える教育活動、地域貢献活動をめざす。 教職員の人権感覚を豊かにする校内研修体制の充実ならびに校外研修への積極的な参加を呼びかける。	B B	・ここ数年、生徒や保護者の実態が大きく変化しており、その変化に対し、過去の経験だけでは対応できない現状がある。私たちの生徒への認識にも日々ブラッシュアップが望まれている。教育の普遍と可変を見極め、今の生徒に届く支援体制を整えるためにも、家庭や地域の実態把握に努め、教職員と細やかに連携を図っていくことを次年度の目標にしたい。
	日常の学校生活や学校行事において、集団中での役割を自覚し行動することができる生徒を育成する。 人権尊重の精神を貫いた教育活動を展開し、協働的な生徒指導体制を整える。	学校行事において、生徒主体で運営する体制をつくり、リーダーシップの育成を図る。 役割分担を明確にすることで、責任感を持たせ、積極的に行動する態度を育成する。 生徒が発する小さなサインを見逃すことがないよう職員間の情報共有を徹底し、日頃から丁寧に生徒理解を進め、早期発見に努める。 いじめを許さない、見逃さないよりよい人間関係づくりやホームルーム経営を行う。	A B	・いじめ認定事案の発生を防ぐため、いじめの早期発見、早期解決をするための職員研修を実施する。 ・生徒会活動を充実させるため、校則の在り方について協議し、愛校心が育まれる積極的な生徒指導を実施する。 ・学校行事に積極的に参画することができるリーダー育成を、他分掌と協力し行う。
保健・整美	清掃活動の徹底により、集団の一員としての役割を自覚させるとともに、校内美化の意識向上を図る。 生徒が心身ともに健康な学校生活を送ることができるように、危機管理意識及び防災意識向上のために研修会や訓練を実施し、指導、支援する。	整美委員会において清掃研修を行い、クラスでの清掃を徹底させる。 ゴミの分別の徹底を通して、ワンヘルスなどの環境問題に対して、意識付けを行う。 保健委員会において「ほげんだより」の発行を通して、生徒の自己管理能力を高める。 研修会を通して、「安全・安心」に対する意識を向上させ、実践できる力を養わせる。	B A	・保健については、今年度の内科検診、身体計測についてはスポーツテストと同日に実施したが安全面を考慮して内科検診についてはスポーツテストよりも前の日程で実施していく。 ・整美については、外掃の掃除区域制の見直しを行い、落ち葉などの掃除も季節を考え、入れていきたい。また「花育」の活動として、教室に継続して花を置き、育てることで、豊かな心を育てさせたい。

学校関係者評価

評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
A	A

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	・総合学科発表会は、他校にはない取組で、先生方が指導されている成果が出ているので、評価はAでよい。
A	・貴校に一番近い中学校ではあるが、総合学科の特色をよく知らない状況であった。今後も中学校にもっと情報発信して欲しい。
A	・「ハングル」の講座を増やすことはよいと思うが、それを学んだ生徒の進路先など学校としての進路指導を充実させて欲しい。 ・行事等への取組が図れているので、学習面での生徒の満足度を高める工夫をして欲しい。
A	・各行事は適切に運営できていると評価できる。
A	・図書の出庫数が増加しているのは評価できる。
A	・多様化する大学入試に対応して欲しい。 ・資格取得応援助成金で意欲的に取り組まれているのはよい取組である。
B	・担任が家庭訪問できないときに修学支援の先生方が家庭訪問をされていることは、よい取組である。
A	・LGBTQの対応で女子のスラックスの選択、スクールカウンセラー、職員研修を実施していることは評価できる。 ・校則の見直しにおいては、社会人としてのアイデンティティを育成するための視点を入れ、自律を育てて欲しい。
A	・花育プロジェクトは、教室環境もよい雰囲気となり、よい取組であるので継続し欲しい。 ・学校の北側の敷地の周辺を部活動生がよく清掃をしてくれている。地域から見てもよく掃除をしてくれているので継続して欲しい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の先生方に福岡講倫館高等学校の特色を更に発信していく。 ・総合学科の特長を生かし、大学進学から就職に対応できる学力保障、進路指導の充実を図り、オープンスクール等で効果的に情報を発信していく。 ・学校周辺の清掃活動を含め、環境整備に努めていく。 ・LGBTQを含め、人権・同和教育を基盤とした職員研修、人権学習を推進していく。 ・生活指導においては、生徒一人一人の人権を尊重し、誰もが安心・安全な学校生活を送れるように配慮するとともに、学校、家庭、地域、専門機関との連携体制を強化する。
--

評価項目以外のものに関する意見
